

第2回GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の 円滑な活用に関する調査協力会議

令和3年7月14日(水)

公益社団法人

日本PTA全国協議会





1. 保護者の意識
2. 有効な活用について
3. 今後配慮して欲しい点



1. 保護者の意識



1. 保護者の意識

①GIGAスクール構想はコロナ禍以前より進んでいた話ではあるが、新型コロナウイルス感染症による臨時休校の対策として、1人1台端末との認識が多い。

→前倒しで急激に構想が進んだため本来の意図が伝わっていない



1. 保護者の意識

②在宅勤務の増加や、スマホ・タブレットの所持率増加により、家庭での環境はほぼ整っている。特に違和感なく入り込んでいる。

③ディスレクシア（識字障害）で読み書きに困難を抱える家庭は待ち望んでいた。



2. 有効な活用について



2. 有効な活用について

- ①学校と家庭のより深い連携や、長期休業中等において、リアルタイムで子どもたちの様子を把握しフォローできるのではないかな。
- ②遠隔教育との組合せ等により、山間地の小規模校等において、特定の教科の先生が不在の場合、地域や学校を跨いだ学びの機会の確保ができるのではないかな。



2. 有効な活用について

③特定の教科（例えば英語の発音や数学の立体図形）において、特に有効性を発揮するのではないか。

④手を挙げて発言するのが苦手な子どもたちも、端末入力で意見を言う機会が増えるのではないか。



2. 有効な活用について

- 学校の端末、子どもたちの端末、保護者の端末が相互連携し、子どもたちの学習の状況や、学校での様子など、リアルタイムで状況共有し、学校教育や家庭教育に生かしていく。
- デジタルが特に有効な教科をしっかりと活用していく。



3. 今後配慮して欲しい点



3. 懸念点

- ①長時間コンピュータを利用することによる、視力・聴力低下等の影響が出ないか。
- ②端末の管理責任は。特に家庭持ち帰ってきた時に破損、紛失の際の責任の所在がはっきりしていないことが多い。
- ③指導の先生のICT活用能力に大きく差があるのではないか。



3. 懸念点

④紙の教科書と端末とで、子どもたちの理解度や成績に、どの程度違いが出てくるのか？

⑤家庭でのネットワーク環境



公益社団法人 日本PTA全国協議会